平成31年1月NO.63号

水土里ネット奈良

奈良の土地改良

発行所
奈良県土地改良事業団体連合会
奈良市高畑町1116-6
TEL0742-26-1310　FAX0742-26-1288
http://www.naradoren.or.jp

県営ほ場整備事業山陰地区（五條市）

○新年ご挨拶　　奥野信亮奈良県土地改良事業団体連合会会長
　　進藤金日子参議院議員
　　宮崎まさお全国水土里ネット会長会議顧問
○奈良県土地改良区連絡協議会臨時総会並びに“明日の農業を考える集い”
○「農業農村整備の集い」～農を守り、地方を創る予算の確保に向けて～
○平成３１年度奈良県の農業・農村の振興に関する政策提案・要望活動
○平成３１年度土地改良の予算概算決定について
○第４１回　全国土地改良大会（宮城大会）
○行事予定（２月から３月）

新年のご挨拶

奈良県土地改良事業団体連合会
会　長　奥 野 信 亮

皆様方におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年も土地改良事業の充実に向けて尽力して参る所存でございますので、引き続きましてのご指導を賜りますようお願い申し上げます。

今年は「亥年」であります。相場の世界の格言では「戌笑う」に続いて「亥固まる」と言われ、好調である景気の状態が持続する年になることが多いと、亥・猪は歓迎されておりますが、農業に関しては最近では猪はすっかり悪役であります。平成 29 年のデータですが奈良県の猪による農作物の被害状況は面積で 147 ヘクタール、金額にすると 9868 万円です。鳥獣の合計では面積で 237 ヘクタール、金額では 1 億 7246 万円という甚大な被害が出ています。もちろん対策としては侵入防止柵の設置や個体数調整(所謂、捕獲駆除)などが行われておりますが、そもそも鳥獣被害増大の原因は耕作放棄地の増加と農村環境の変化であります。鳥獣のテリトリーである森林と我々人間のテリトリーである農村の境界であった「里山」がその過疎化によって荒れてしまい、人間と鳥獣のテリトリーの境界が曖昧になってしまったということが鳥獣被害発生の根本的な原因であります。農村の整備の重要性を唱えるとき「米や野菜などの生産の場」の整備という側面はもちろん「農業・農村の有する多面的機能」もクローズアップされます。多面的機能とは「国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承」などが主なものですが、「里山」の荒廃によって増大した農作物の鳥獣被害を見ていると、人間と鳥獣の境界の形成という機能も大きなポイントではないかと感じます。手塩に掛けて育てられた農作物を鳥獣から守る為にも農村整備についてはこれからも不断の努力が必要だなと取り組みへの決意を新たにしています。

また昨年、日本貿易振興機構の奈良貿易情報センターが設置されましたが、農業を輸出産業にしていこうということが我が国の農業政策の大きな柱であります。付加価値の高い農作物を輸出する攻めの農業が私の持論でもありますので、この点についても皆様と議論を深められればなと思います。

そして今年は選挙イヤーであります。春には統一地方選挙が、夏には参議院議員選挙が行われます。三年前の参院選で我々の代表として比例区で立候補された進藤金日子氏は全国で 18 万 2467 票を、奈良県においても 2417 票を獲得され見事当選。「自然豊かな美しい農山漁村の継承」を目指して着実に議員活動を続けておられます。今回は兵庫県の出身で進藤氏と同じく農林水産省に奉職されていた宮崎まさお氏にチャレンジしていただくことになっております。宮崎氏は「農山漁村は未来への礎」をモットーに昨年の 1 月より政治活動をスタートしておられます。進藤先生、そして宮崎まさお氏との共闘態勢で参議院に於いて土地改良の充実に取り組んでいただけるよう我々もしっかりと支えていきたいと考えております。

最後になりましたが本年が皆様方にとりまして佳き年となりますよう祈念申し上げ、ご挨拶と致します。

新年を迎えて

全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員　進藤　金日子

新年明けましておめでとうございます。昨年は、自然災害が頻発した年でした。被災された全ての方々に心からお見舞い申し上げます。平成最後の年となる今年も、「平成」の由来の如く「地平天成」（地平らかにして天なる：国の内外、天地とも平和が達成される）の年になることを強く願いたいと思います。

さて、昨年末に平成３０年度第２次補正予算と平成３１年度当初予算の政府原案が閣議決定されました。土地改良予算としては、総額で6,451億円（３０年度補正：1,488億円、３１年度当初：4,963億円）を確保することができました。これもひとえに、農業改革の推進に不可欠な土地改良の実施に向けた現場からの強い要請と関係者の皆様の熱意を、政府と与党にしっかりと受け止めていただいた結果です。予算は、人任せでは確保できない、自ら汗をかき実働して確保する、まさに「闘う土地改良」の成果であると言えます。この貴重な予算が一日も早く現場に届くよう、今次通常国会で早期成立に向けて努力してまいります。

今回の予算の特徴は、何と言っても「国土強靱化」に重点が置かれたことです。重要インフラの緊急点検等を踏まえた「防災・減災、国土強靱化のための3カ年緊急対策」として補正と当初を合わせて1,091億円計上され、制度的にも防災重点ため池整備等で大幅な拡充がなされました。また、ここ２回にわたる土地改良法の大改正を踏まえ、土地改良区の複式簿記の義務化等に対応した土地改良区体制強化事業が整備されるなど、現場の声に即した具体的な対応策も示されました。農業競争力強化関係でも現場の実態に即した要件設定やハードとソフトの連携強化策などが盛り込まれています。今回の予算は、土地改良の原点である現場重視の視点が更に強化されたものとなっています。この貴重な予算を効率的、効果的に執行し、土地改良に対する国民の皆様の期待に応えていくことが重要です。

皆様、ご案内のとおり私の同志である宮崎雅夫（まさお）さん（全国水土里ネット会長会議顧問）も「土地改良は未来への礎」を訴えて全国各地を精力的に巡回しています。宮崎さんと私が皆様と連携して「闘う土地改良」を共闘できるようにご指導とご支援を心からお願い申し上げます。

本年も引き続き皆様と一緒になって諸課題の解決に向けて専心努力してまいる覚悟です。本年が皆様にとってご家族共々素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。

「闘う土地改良」－未来への礎を築くために

全国水土里ネット会長会議
顧問　宮 崎　まさお

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、良き年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

私にとっては、いよいよ決戦の年となりました。

全国の関係者の皆様の土地改良に対する熱い思いに触発され、全国水土里ネットの二階俊博会長が提唱された「闘う土地改良」の旗のもと、不退転の覚悟で政治活動に取り組むことを決意し、一昨年末、３０年間勤めた農林水産省を地域整備課長を最後に退職しました。昨年１月には全国水土里ネット会長会議顧問を仰せつかり、この１年間、全国各地で地域の実情や意見をつぶさに拝聴させていただきました。これまでの移動距離は地球５周分の２０万kmになりました。

昨年は、西日本豪雨や北海道胆振東部地震をはじめとする地震、台風、さらには噴火など、全国各地で自然災害が相次ぎました。被災された方々にお見舞い申し上げるとともに、被災地の一日も早い復旧・復興を願ってやみません。また、被災地の状況をお聞きするたびに、防災・減災対策は一刻の猶予も許されないとの思いを強くしています。

私の実家は兵庫県の農家です。田んぼや山に囲まれて育ちましたが、この一年全国を訪問する中で、４５０万haの農地と４０万kmに及ぶ農業用水路・排水路、そしてこれを支える土地改良組織が一体となって、食料の安定供給と多面的機能の発揮を通じ、国民の食と暮らしを支えておることを改めて実感しました。

土地改良は、先人が創り上げてきた農地やかんがい排水施設などをそれぞれの時代に応じて整備を行い、次の世代に引き継いでいくシステムです。つまり、土地改良は、現在の農業の発展はもとより、日本の「未来への礎」を築くものであると考えています。

私は、現場でお聞きした様々な課題を解決し、日本のすばらしい農山漁村を「未来への礎」として、子どもや孫たちに引き継いでいくため、「大切な農地と水を守る」「農山漁村を災害から守る」「美しい農山漁村を守る」という三つの目標のもと、これを実現するため、土地改良の安定的な予算確保や災害に強い農山漁村づくりなど、７つのチャレンジに全力で取り組んでいく考えです。

とりわけ土地改良予算については、「闘う土地改良」の旗のもと、関係者の努力により回復基調にはありますが、地域の切実な要望に応えるためには、当初予算の回復・拡大が必要です。国政の場において、進藤金日子議員が「闘う土地改良」の先陣を担っておられますが、私もその一翼となれるよう、全身全霊をもって活動に打ち込んでいく考えです。

今年は天皇陛下が御退位され、元号が変わる大きな節目の年です。新しい時代の始まりの年でもあり、土地改良にとっても大きく羽ばたく年にしなければなりません。皆様の土地改良に対する熱い思いと大きな力を、私、宮崎まさおに賜りますようお願いいたします。

むすびに、本年が皆様にとって実り多き年になりますように祈念いたしまして、私の新年のご挨拶といたします。

奈良県土地改良区連絡協議会臨時総会並びに”明日の農業を考える集い”

平成３０年１２月１４日(金)、なら土連会館において「奈良県土地改良区連絡協議会臨時総会」が県内土地改良区から５１名が出席し開催されました。

来賓挨拶　宮崎まさお氏

はじめに協議会の中筋弘会長の挨拶の後、来賓の古川芳之県農林部次長、宮崎まさお全国水土里ネット会長会議顧問がそれぞれ挨拶されました。

次に、議事に入り「平成30年度会計収支補正予算(案)」が、議決承認を得ました。

続いて「明日の農業を考える集い」が、県内土地改良区、奈良県指導農業士会、奈良県農業振興功績者表彰受賞者会等約１００名が参加し開催されました。

講演　荒井正吾奈良県知事

集いでは、松野裕近畿大学農学部教授が「先端技術を用いた農業・農村の展開」、宮崎まさお全国水土里ネット会長会議顧問が「農業農村整備の今後の展開方向」、荒井正吾奈良県知事が「奈良県農業、農村の振興、農地活用施策について」、堀井巌参議院議員が「農業農村を取り巻く情勢」と題して講演されました。

その後、「奈良ロイヤルホテル」において、荒井知事はじめ、奥野奈良県土地改良連合会長、堀井参議院員、進藤参議院員、宮崎まさお氏ほか講師先生方にもご出席いただき、情報交換会を開催されました。

講演　堀井巌参議院議員

情報交換会の様子

来賓挨拶　奥野信亮会長

「農業農村整備の集い」～農を守り、地方を創る予算の確保に向けて～

平成３０年１１月１４日（水）シェーンバッハ・サボー（東京都）において「農業農村整備の集い」が、全国土地改良事業団体連合会及び都道府県土地改良事業団体連合会の共催で開催されました。当日は、全国から約１，３００名の水土里ネット関係者が参集しました。集いでは、二階俊博全土連会長の主催者挨拶があり、「闘う土地改良」を旗印とした土地改良事業関連の２０１９年度当初予算の獲得への士気を高めました。集いでは全５案の要請文が全会一致で採択され、参加者による、ガンバロウ三唱が行われ、「農業農村整備の集い」は、盛会裏に終了しました。

平成３１年度奈良県の農業・農村の振興に関する政策提案・要望活動

平成３０年１１月１５日（木）、奈良県土地改良事業団体連合会、奈良県農業農村整備事業推進協議会、奈良県土地改良区連絡協議会合同による、平成３１年度奈良県の農業農村の振興に関する政策提案要望活動を行いました。当日は、上田大和郡山市長、芝田曽爾村長ほか土地改良区理事長１０名が代表して、地域の実情を説明しました。

【提案事項】

1. 日本一の柿産地五條吉野地区の用水源「一の木ダム」の水管理施設や揚水施設、幹線水路等が老朽化し用水安定供給に支障が生じているため、国営施設応急対策事業を採択され、早期に改修整
2. 土地改良法の改正の趣旨に即し、
   ①農地耕作条件改善事業における推進費助成割合の引き上げ（５％→１２.５％）
   ②防災減災対策調査計画事業の定額助成制度の継続
3. 農地や水路、農道等の保全にかかる多面的機能支払交付金および推進交付金による支援を一層充実すること
4. 土地改良施設の適時適切な機能診断、計画的な更新整備等に資する農地地図情報ＧＩＳシステム（水土里情報システム）を土地改良区等が導入する際の支援やデーター整備・更新、システムの
5. これらの事業を円滑に行うため、平成三十一年度当初予算において、農家のニーズに十分応えられる規模の予算を確保すること

奥野信亮衆議院議員

堀井巌参議院議員

平成３１年度土地改良の予算概算決定について

平成３０年１２月２１日に閣議決定されました農業農村整備事業関係予算は、３０年度当初予算に対し**１．６％増の４，４１８億円、**「臨時・特別の措置」と３０年度２次補正追加額を合わせるとの**６，４５１億円**と大幅な額の確保となりました。

	３０年度予算額	３１年度概算決定額			３０年度２次補正追加額	合計
		「臨時・特別の措置を除く A	「臨時特別の措置」 B	概算決定額 C＝A＋B	D	C＋D
農業農村整備事業（公共）	3, 211	3, 260 (101. 5%)	511	3, 771 (117. 5%)	1, 413	5, 184 (161. 5%)
農業農村整備関連事業（非公共）	499	508 (101. 8%)		508 (101. 8%)	40	548 (109. 9%)
農山漁村地域整備交付金（公共）（農業農村整備分）	639	650 (101. 7%)	35	685 (107. 1%)	35	720 (112. 6%)
計	4, 348	4, 418 (101. 6%)	546	4, 963 (114. 1%)	1, 488	6, 451 (148. 4%)

当初＋補正5,905億円
（「臨時・特別の措置」を除く）

注：計数は四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものである。

第４１回全国土地改良大会（宮城大会）

平成３０年１０月１６日（火）に、第４１回全国土地改良大会が“先人の意志を受け継ぐ「伊達の地」に水土里の絆　復興の歩み”をテーマに宮城県総合運動公園「グランディ２１」において全国土地改良連合会と宮城県土地改良連合会の主催により全国から土地改良関係者が約６，０００名集まり、開催されました。

土地改良事業功績者表彰では、農林水産大臣表彰６名、農村振興局長表彰１６名、全国土地改良連合会長表彰４６名が表彰されました、。奈良県からは、倉橋溜池土地改良区理事長大倉康至氏が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受けました。

次期開催地は岐阜県となります。たくさんのご参加お待ちしております。

大会の様子

全土連会長表彰を受賞

参加者の皆様

行事予定（２月から３月）

開催時期	行事予定	開催場所
２月６日（水）	奈良県多面的機能支払交付金研修会	大和平野土地改良区
２月８日（金）	農業農村振興に関する研修会	なら土連会館
２月２０日（水）	理事会	なら土連会館
２月下旬	奈良県農村地域づくり研修会	田原本町多
３月２５日（月）	第５９回通常総会	なら土連会館

奈良県土地改良事業団体連合会（水土里ネット奈良）
〒６３０－８３０１　奈良市高畑町１１１６－６なら土連会館１階
ＵＲＬ：http://www.naradoren.or.jp　　E-mail：na-doren@hyper.ocn.ne.jp
Tel：０７４２－２６－１３１０　Fax：０７４２－２６－１２８８
水土里ネット奈良